

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	大信精機(株)様 部品整備室	階数	地上 2F
建設地	常滑市久米字御林200、308、309	構造	S造
用途地域	用途地域指定なし、防火地域指定なし	平均居住人員	35 人
気候区分	6地域	年間使用時間	7,000 時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2017年3月 予定	評価の実施日	2016年9月20日
敷地面積	仮想敷地: 2,132.02 m <sup>2</sup>	作成者	(03896-21)今西良一
建築面積	1,580 m <sup>2</sup>	確認日	2016年9月23日
延床面積	2,538 m <sup>2</sup>	確認者	土居設計事務所 土居忠史



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.1** ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

標準値: 3.0, BEE=1.0

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

★☆☆☆☆

標準計算

①参照値	100%
②建築物の取組み	73%
③上記+②以外の	73%
④上記+	73%

(kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです。

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

Q1 室内環境: 3.0  
Q2 サービス性能: 3.7  
Q3 室外環境(敷地内): 2.4  
LR1 エネルギー: 3.2  
LR2 資源・マテリアル: 3.1  
LR3 敷地外環境: 3.4

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 2.9**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 0.0

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.7

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.4

**LR のスコア = 3.2**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.2

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.1

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.4

### 3 重点項目

<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p>4.0</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p>3.0</p>	<p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p>50.7 %</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p>0.0 %</p>
<h4>②資源の有効活用</h4> <p>3.3</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p>1.0</p>	<p>&lt;外装材に使用した地域性のある材料&gt;</p> <p>なし</p> <p>&lt;建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材&gt;</p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮  
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用  
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性  
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化  
Q-3 1 生物環境の保全と創出

④地域材の活用  
Q-3 2 まちなみ・景観の配慮 4) 地域性のある素材による良好な景観形成

外構緑化指数 =  $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積} - \text{建物面積} + \text{附属面積}} \times 100$

建物緑化指数 =  $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み 係数	評価点	重み 係数	
<b>Q 建築物の環境品質</b>								
<b>Q1 室内環境</b>								
<b>1 音環境</b>								
1.1 騒音				-	-	-	-	-
1.2 遮音				-	-	-	-	-
1 開口部遮音性能				-	-	-	-	-
2 界壁遮音性能				-	-	-	-	-
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				-	-	-	-	-
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				-	-	-	-	-
1.3 吸音				-	-	-	-	-
<b>2 温熱環境</b>								
2.1 室温制御				-	-	-	-	-
1 室温				-	-	-	-	-
2 外皮性能				-	-	-	-	-
3 ゾーン別制御性				-	-	-	-	-
2.2 湿度制御				-	-	-	-	-
2.3 空調方式				-	-	-	-	-
<b>3 光・視環境</b>								
3.1 昼光利用				-	-	-	-	-
1 昼光率				-	-	-	-	-
2 方位別開口				-	-	-	-	-
3 昼光利用設備				-	-	-	-	-
3.2 グレア対策				-	-	-	-	-
1 昼光制御				-	-	-	-	-
3.3 照度				-	-	-	-	-
3.4 照明制御				-	-	-	-	-
<b>4 空気質環境</b>								
4.1 発生源対策				-	-	-	-	-
1 化学汚染物質				-	-	-	-	-
4.2 換気				-	-	-	-	-
1 換気量				-	-	-	-	-
2 自然換気性能				-	-	-	-	-
3 取り入れ外気への配慮				-	-	-	-	-
4.3 運用管理				-	-	-	-	-
1 CO <sub>2</sub> の監視				-	-	-	-	-
2 喫煙の制御				-	-	-	-	-
<b>Q2 サービス性能</b>								
<b>1 機能性</b>								
1.1 機能性・使いやすさ				-	-	-	-	-
1 広さ・収納性				-	-	-	-	-
2 高度情報通信設備対応				-	-	-	-	-
3 バリアフリー計画	独自			-	-	-	-	-
1.2 心理性・快適性				-	-	-	-	-
1 広さ感・景観				-	-	-	-	-
2 リフレッシュスペース				-	-	-	-	-
3 内装計画				-	-	-	-	-
1.3 維持管理				-	-	-	-	-
1 維持管理に配慮した設計				-	-	-	-	-
2 維持管理用機能の確保				-	-	-	-	-
<b>2 耐用性・信頼性</b>								
2.1 耐震・免震				3.3	0.52	-	-	3.3
1 耐震性			基準法の25%増しの耐震性を確保	3.8	0.48	-	-	-
2 免震・制振性能				4.0	0.80	-	-	-
2.2 部品・部材の耐用年数				3.0	0.20	-	-	-
1 躯体材料の耐用年数				3.0	0.33	-	-	-
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		②		3.0	0.23	-	-	-
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔			最短年数:20年	2.0	0.23	-	-	-
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				5.0	0.09	-	-	-
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				3.0	0.08	-	-	-
6 主要設備機器の更新必要間隔			使用量上位3種のうち、2種以上にB以上を使用している。E不使	5.0	0.15	-	-	-
2.4 信頼性				2.0	0.23	-	-	-
1 空調・換気設備				3.0	0.19	-	-	-
2 給排水・衛生設備				3.0	0.20	-	-	-
3 電気設備				3.0	0.20	-	-	-
4 機械・配管支持方法		②		3.0	0.20	-	-	-
5 通信・情報設備				3.0	0.20	-	-	-
<b>3 対応性・更新性</b>								
3.1 空間のゆとり				4.0	0.48	-	-	4.0
1 階高のゆとり			3.9m ≤ 平均階高: 5.63m	4.6	0.31	-	-	-
2 空間の形状・自由さ			0.1 ≤ 壁長さ比率: 0.19 < 0.3	5.0	0.60	-	-	-
3.2 荷重のゆとり			4500N/㎡ ≤ 床積載荷重: 10,000N/㎡	4.0	0.40	-	-	-
3.3 設備の更新性				5.0	0.31	-	-	-
1 空調配管の更新性				2.8	0.38	-	-	-
2 給排水管の更新性				3.0	0.17	-	-	-
3 電気配線の更新性				2.0	0.17	-	-	-
4 通信配線の更新性				3.0	0.11	-	-	-
5 設備機器の更新性				3.0	0.11	-	-	-
6 バックアップスペースの確保		②		3.0	0.22	-	-	-

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準 重点項目	評価点	重み 係数	評価点	重み 係数	評価点	重み 係数	評価点	重み 係数	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>										
1 生物環境の保全と創出	独自③	外構緑化指数:工場敷地全体で評価	3.0	0.30	-	-	-	-	-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮	独自④		2.0	0.40						2.0
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>										
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	独自④		2.5	0.30						2.5
3.2 敷地内温熱環境の向上			2.0	0.50						
			3.0	0.50						
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>										
<b>LR1 エネルギー</b>										
BPIm=										
1 建物外皮の熱負荷抑制			3.0	0.28						3.0
2 自然エネルギー利用			4.0	0.43						4.0
<b>3 設備システムの高効率化</b>										
集合住宅以外の評価(3a.3b)		BEIm=0.45 高効率照明器具の採用	4.0	1.00						
集合住宅の評価(3c)										
<b>4 効率的運用</b>										
集合住宅以外の評価			2.5	0.29						2.5
4.1 モニタリング			2.5	1.00						
4.2 運用管理体制			3.0	0.50						
集合住宅の評価			2.0	0.50						
4.1 モニタリング										
4.2 運用管理体制										
<b>LR2 資源・マテリアル</b>										
<b>1 水資源保護</b>										
1.1 節水										
節水コマ+省水型器具										
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.6	0.15						3.6
1 雨水利用システム導入の有無			4.0	0.40						
2 雑排水等利用システム導入の有無		工業用水の使用	3.3	0.60						
			3.0	0.67						
			4.0	0.33						
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>										
2.1 材料使用量の削減			2.8	0.63						2.8
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.07						
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	② 独自	-	3.0	0.25						
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.21						
2.5 持続可能な森林から産出された木材			1.0	0.21						
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	独自	解体時に分別しやすいボード下地構成	-	-						
			4.0	0.25						
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>										
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.6	0.22						3.6
3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.32						
1 消火剤			4.0	0.68						
2 発泡剤(断熱材等)		発泡断熱材の使用なし	-	-						
3 冷媒			5.0	0.50						
			3.0	0.50						
<b>LR3 敷地外環境</b>										
<b>1 地球温暖化への配慮</b>										
1 地球温暖化への配慮	①	ライフサイクルCO2概算値:73%	4.0	0.33						4.0
<b>2 地域環境への配慮</b>										
2.1 大気汚染防止										
燃焼器具の使用なし										
2.2 温熱環境悪化の改善			3.3	0.33						3.3
2.3 地域インフラへの負荷抑制			5.0	0.25						
1 雨水排水負荷低減	独自		3.0	0.50						
2 汚水処理負荷抑制			2.5	0.25						
3 交通負荷抑制	独自	工場敷地全体で評価	3.0	0.25						
4 廃棄物処理負荷抑制			3.0	0.25						
			1.0	0.25						
<b>3 周辺環境への配慮</b>										
3.1 騒音・振動・悪臭の防止										
1 騒音	独自		3.0	0.40						
2 振動	独自		3.0	1.00						
3 悪臭			-	-						
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制										
1 風害の抑制			3.0	0.40						
2 砂塵の抑制			3.0	0.70						
3 日照障害の抑制			-	-						
3.3 光害の抑制										
1 屋外照明及び屋内照明の立ち上り光への対策			3.0	0.30						
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.20						
			3.0	0.70						
			3.0	0.30						

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
<b>① 地球温暖化対策</b>				<b>4.0</b>
LR3-1	地球温暖化への配慮	4.0	0.10	
<b>② 資源の有効活用</b>				<b>3.3</b>
Q2-2	耐震性・信頼性	3.3	0.22	
Q2-3	対応性・更新性	4.0	0.21	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.8	0.19	
<b>③ 敷地内の緑化</b>				<b>3.0</b>
Q3-1	生物環境の保全と創出	3.0	0.17	外構緑化:50.66%/建物緑化:0%
<b>④ 地域材の活用</b>				<b>1.0</b>
		(評価ポイント)		
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■建物名称 大信精機(株)様 部品整備

計画上の配慮事項	
総合	建物の長寿命化と省エネルギー対策、地球温暖化防止に配慮している。
Q1 室内環境	工場用途のため、評価対象外
Q2 サービス性能	耐久性、補修性に優れた材料を使用するよう努めている。将来の用途変更可能性などを考慮している。
Q3 室外環境(敷地内)	敷地周囲に緑地を効果的に配置し、植栽に親しむことができるように配慮している。
LR1 エネルギー	高効率機器の採用で設備システムの高効率化を図っている。
LR2 資源・マテリアル	節水器具を採用し、水資源の保護に努めている。発泡断熱材を使用せず、地球温暖化防止に配慮している。
LR3 敷地外環境	燃焼機器を使用せず、大気汚染防止に努めている。
その他	特になし